

1人1台端末を活用した教育の充実

中核校	栗山町立栗山中学校	指定校	栗山町立栗山小学校、栗山町立角田小学校 栗山町立継立小学校
-----	-----------	-----	----------------------------------

実践前の状況

- ・意識調査で「授業にICTを活用して指導する」「児童生徒のICT活用を指導できる」と回答した教員が3割程度であった。その中で「学習用ソフトウェアなどを活用し、繰り返し学習する課題や児童生徒1人1人の理解・習熟の程度に応じた課題などに取り組ませることができる」は13%に留まっていた。
- ・令和4年度に入って端末の持ち帰りが全校で完了するなど、家庭との連携や指導観の改善が大きく出遅れていた。

実践の概要

ICT活用の必要性を明確にする指導指標の共有化

- ・ICTを活用した授業を苦手とする教員の意識改革を目指し、発達の段階や各教科の単元に応じた指導指標を見直し、全校統一した指標を作成することにより、具体的な活用技術を効率的に取得できるよう取り組んだ。

- ・家庭教育におけるデジタル化の浸透を図るため、保護者や児童生徒が必要な事項を分かりやすく理解できるよう、「よくわかる 校」のICT活用版である指標を作成した。

ICT活用を研究主題に位置付けた組織的な技術力向上

- ・ICTを効果的に活用した授業づくりを目指すため、教員間で課題を焦点化したミニ研修を繰り返し開催し、効率よく技術の習得に努めた。併せて、ICTを活用した個別最適な授業づくりを目指すため、ファシリテーター型の学習指導に取り組んだ。



【保護者への理解を図る指標の作成】



【端末とデジタル機器を活用した授業】

実践の充実に向けた取組の工夫

〔校長の取組〕

- ・ICTの活用について、道教委が示す指導指標の共通理解を図るとともに意図的に確認しながら事後の対応を明確にするよう取り組んだ。結果、全学年で「ステップ2」の活用が可能になっており、現在、第4学年以上における「ステップ3」の実践を進めている。

〔教育委員会の取組〕

- ・ICTに係る専門委員会を主催し、指導指標の作成や、学校間、教員間の技術格差の解消に取り組んだ。
- ・令和6年度までの2年間の計画で、ICT環境の整備・充実に取り組んでいる。
〔端末の順次更新、家庭におけるインターネット環境整備補助事業、デジタル教材（オクリンク、ドリルパーク、ムーブノート）整備、学習者用デジタル教科書（国語・算数・理科・社会）整備、保護者連絡ツール tetoru（C4th との連携含む）整備等〕

成果（ ）と今後の課題（ ）

意識調査において、「授業にICTを活用して指導する」「児童生徒のICT活用を指導できる」と回答した教職員の割合が5割程度にまで増加した。

意識調査において、「クロムブックを使った授業は楽しい」と回答した児童生徒の割合が98%となり、目標の85%を上回り、100%に近付いた。

家庭との連携を一層強化し、日常的な端末の持ち帰りと、デジタル教材による家庭学習の浸透等について実践検証を深めていく必要がある。

